夕刊
磐城新聞
一月二十九日發行
（日曜祭日翌日休刊）

磐城地方の石に關する民間傳說 (2)

磐城民俗研究同志會

◇龜の子岩　仁井田にある。百年ばかり前のことだといふが、山田村大津附近の豐年沼に大龜が現れた時大津に弓の達者な人があつて之を射た。龜は姿をかくした。四五年後隣人某がこの近くの宿屋にとまつた時座敷に飾りとしてある矢を見れば自分のものであつた。更に訊ねると龜の甲が飾りになつてゐる。非常に驚いて、それから病氣となり遂に死んだ。今仁井田の鮫川にある大岩は其龜なのだといふ

（二）石の移動傳說

◇人形石　伊達政宗が使を遣にして盛んに海外と交通して居た頃の事。或時その使が博多に着いたか、その地の娘達が名殘りを惜しんで各自大事にして居た博多人形をくれた。だがその船は歸途大津（茨城縣多賀郡）五浦の沖で難破して了ひ、人形は石となつて五浦にとゞまつた。この石を他處に持運んだりすると病氣にかゝつたりする。又人形も五浦に歸りたがつて夜泣きして仕方がない。そして獨りで歸つて了ふとの事である

◇藥師堂前の砂利　双葉郡久之濱町田之網の藥師堂前の海岸の小石も、持つて來れば歸りたがつて矢張り獨りで歸つてしまふ。曾つて浪江の人がこの砂利を持運んで庭に築山を造つたが病氣になつた。この石の所爲といふことで返戻した

◇湯ケ原の石　夢崎村白鳥に手頃な石があつたが、內藤侯の目にとまつて庭石として運ばれた。ところが夜となると元の湯ケ原に歸りたいと石が言ふのが屢々藩主と奧方の耳にだけ聞える。それではといふので再びもとの所に返してやつた。今を殘つて居ると聞いた

◇永崎の腹石　江名町永崎海岸の岩穴にある腹石も形が丸の腹に似て居るので名づけたものであるが、この石を穴から取り出したら暴風雨になり、返したら穩やかになつた。又その石が見えなくなれば嵐が起るといふ、その折は赤飯などを上げて無事を祈るとの事である。嘗て房州の船が來た時、船長がこの石を家に持歸つたが疫病が起つた。占つて貰ふと、自分は永崎の腹石であるかもとに返さねば益々病を流行させる、との恐ろしい神託だつたので驚いてその通りにしたら病は止んだ

夏日閑居

詩學　才野務平

家在墨江汀渚邊
涼風一嫩鬱麗綠
螢窗獨坐消閑足
讀史悠々伴茗煙

この悲しみを

小口幽香

胸に溢れる
この悲しみを
吸ひ取つてくれる者は
ないかしら？
ノートの端に
一ぱいに
悲しい氣持を
書きつらね
びりつとやぶいて
みたけれど
やつぱりやつぱり
駄目だつた
誰か……
この深い悲しみを
吸ひ取つてくれる
人はないか知ら？

新詠

橋本大學

○濃霧せる朝の空に爆音のこもりひびけど見えぬ機影は

戶部君『磐城野』創刊す

○勤めより雪の月を歸り來て先づ手にせるは友の創刊誌

○ひた心磐城野にもる君が熱見つつし反省りて我をさみしむ

○ひたきほひ友がはげめる様見つつ怠けくらせる我を反省す

○○○○○ 新年歌問答

佐々木弘文

二

諸會のよりは十四年後の天平寶字三年に詠まれ萬葉集の最後に載つてゐます

前のは應制の作、これは下僚を集めての宴飲の詠、そこにおのづからなる氣象の相違が認められますが、共に新年に頌するによい歌であります

新しき年のはじめに思ふどちい群らてみれば嬉しくもあるか（卷十九）

道祖王

天平勝寶五年正月四日に日本ではじめての圖書館である芸亭を造つた石上宅嗣の家で宴會をした時の歌

正月たつ年のはじめに斯くしつつ相し笑みてば時じけめやも（卷十八）

大伴家持

天平勝寶二年正月五日に久米廣繩の館で宴した時の作。二首共に親しい友人同志が寄り集まつて新年を樂しみ遊んだをりの喜びを陳べたもので、現代の吾々がうちつどうて新年を樂しみ遊ぶのと少しも變つてをらぬのであります

問　新年を喜び祝つた歌が古くからあつて、それが今の私たちの感情と殆ど異つてをらぬことがわかりましたが、今度はその他のすぐれた歌のお話をしていたゞきたうございます

答　ではこれから、新年の歌のすぐれたもの幾首について簡單にお話をしませう

ひさかたの天の香具山この夕かすみたなびく春立つらしも（萬葉卷十）

作者未詳

◇……△……○……◇

講談　黃金魔

(62)　高桑義生作　樋口悅也畫

崩ゆるもの（五）

寬之助と錦藏はギョッとして顏を見合せた
瞬間、はりつめた沈默。不吉な豫感がいなづまの如く、ふたりの胸をつんざいた

『誰か、誰か來てくれ。船を止めろッ！』

狂氣のごとく東左衛門が叫んでゐる。舷側の欄干ぎはを右往左往して——

寬之助、錦藏は馳け寄つた

『なんです？』

『どうしました？』

『お染が、お染が……』

東左衛門はわなわなふるへる手で海面を指さした。

『お染が身を投げた！』

『えッ！』

錦藏は仰天した

『船を、音を……寬之助、貴樣はやく船頭に知らせろ！』

寬之助は猶豫なく走り去つた

まもなく急を告げる法螺の音が月夜の海に、異樣にひびきわたつたのである。さうして錨が投じられ、船は止まつた。はるかに一抹の霞のごとく陸の影が見えてゐる

人々は八方から船尾の甲板に集まつた

『船をおろせッ！』

『早くしろッ！』

『助けろッ、助けてくれ……！』

船頭彌兵衛の指圖で第一の救助船が雪のやうな飛沫を躍らして海面におろされた。が、船はみる〳〵流されて行く

『あッ、いけねえ、丁度潮のさげッぱなだ。はやい、はやい矢のやうだ。彌兵衛ッ、だめか、見込みはないか？何んでもいゝ、みんな下ろせ命がけでやつて見てくれ。骨折賃は望みしだいだ』

ひとり東左衛門の聲ばかり

『畜生ッ、なんといふ事をしやがつたのだ。面あてだ憎い奴だ。彼奴等のせえだ、だから、おれは……』

東左衛門はしどろもどろに叫ぶのである

すごいやうな月夜である

大氣は凍て、白絹のやうに光りかゞやいて、骨を突き刺す寒さである

また、一般の船が六人の船夫をのせて下ろされた

寬之助はさむ〴〵と輝く浪のうねりに見入つてゐると、錦藏が寄つて來た。かれは日頃の落着きをうしなつて

『寬之助、たのむ。助けてくれ。お前は水には十分の心得がある。先夜の手なみでわかる……』

『さあ、夜でなければ……それに潮の流れが斯う迅くては』

『ちえッ、そんな……そんな事をいはずに……』

『だめですよ。商賣人でさあの通りです』

寬之助のいふ如く、二艘の船は潮の流れになやんでゐる。たしかに場所が惡いのだ。かれらは月光に海面を透かしながめて、お染の浮びあがるのを待つてゐるすはといへば飛び込む用意だ

『あゝ、飛んでもない事をしてくれた』

錦藏はさういつて唇をかみしめた

だが、寬之助は着物を脫ぎはじめたのである

三艘目の船、それには東左衛門と彌兵衛も乘つた。かれも海には深い經驗をもつてゐる

時は刻々と過ぎる。この寒氣だけでも、水中に入つた者の命は、さう永くはあるまい

かの女は何故に投身したのであらう？

寬之助は雪のやうなまつ白な體を躍らして、海中に飛び込んだ

水音と、人々との驚愕の聲と——

浪は寬之助を呑んだ

1月30日
△曲垣平九郎愛宕山の石段を乘上ぐ（寬永一一）△京都に電車開通（明治二八）△米大統領ルーズヴェルト生る（一、八八二）△小町に窓硝子破壞の窃盗頻々（昭和一〇）

廣告

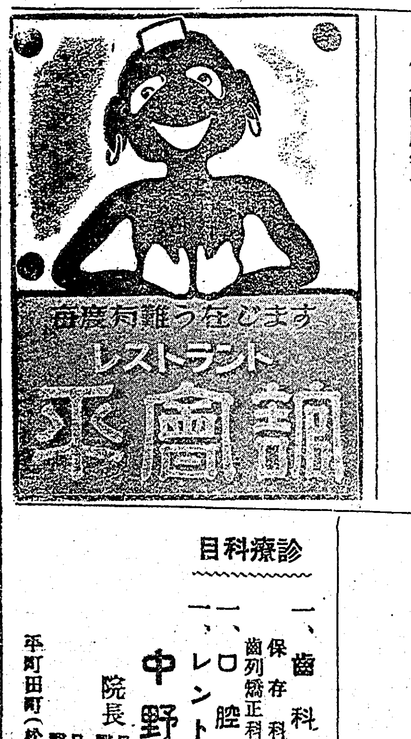
諸橋外科醫院
平町新川町二七　電四六四
內臟外科
皮膚科
花柳病科
レントゲン線
醫學博士　諸橋鐵彌
醫學士　奥義弘

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

高久病院

平町田町
井坂產科婦人科醫院
電話五五九番

松村醫院
院長　松村鐵郎
平町南町電一〇七



開院
五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四

時代の要求皆樣の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行＝直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹
里。柿羊羹
海。のり羊羹
各一本金十錢
右美麗三本箱入　特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元
小川郷驛前
平屋賣店

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、機械架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ふ）電話五〇九番

着荷致しました
呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專門學校御用
吸入用酸素
體溫計（メートルグラス）
御用命次第迅速に御屆け致します。
平町古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所
阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇〇

新春家庭の必需品
大特價大賣出し
・御屠蘇具　屠蘇散景品附　宣傳賣出し
・神具　神棚三寶神具一式　各種陳列
・歲末、年始御贈答品
・新年用、食器各種
・御家庭用品大藏の市
・御贈答に便利な商品券
・御婚禮調度品　タンス、鏡台、針箱　其他一式大安賣
漆器、家具
神具、佛具
文具、雜貨
卸商
平町二丁目
近江屋
電話七一一番

國はニツポン、魚は凍魚
御小賣
日本水產特約
平製氷會社
電二二八。三一六番
鯛　銀鯛　平目
エビ　甘鯛　目拔
白魚　芝エビ　鮭鱒
ワカサギ　貝燒　其他
ヒノマル凍魚
平代理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

インフレ景氣に―事業者の眼は光る
郡內各所を鑛區として 最近試掘願殺到

黒ダイヤ全盛

黒ダイヤインフレの波に乘つて石炭試掘願ひが陸續と當局におしかけてゐるが左記四鑛區は此程何れも試掘を許可された

△田人村一五五、三〇〇坪東京市荏原區下神明町只見晟
△小名濱、江名町九八一、九〇〇坪入山採炭會社
△夏井、草野、高久村九七六、七〇〇同上
△赤井村一五三、〇〇〇坪群馬縣碓氷郡磯部村川上常次郎

又東京市澁谷區常磐松水谷三郎氏出願の石住村四二七、七〇〇坪の金銀銅試掘も同時に許可になつた

小名濱澤庵好評
各方面から注文殺到

品質の向上に販路開拓中の小名濱名產澤庵漬は既報の如く此程福島市に開かれた縣內副產物卽賣會に出陳した處事の外評判がよく早速赤羽陸軍被服廠から四斗樽詰め五十樽の大量注文を受けたので直に準備に着手した、尚さきに五千貫匁の注文を受けた昭和人絹會社へは取り敢へず三百貫匁を納入した

水揚高百八十六萬圓
昨年中の小名濱魚市場
近くは二百五十萬突破か

小名濱魚市場の十年中の魚類水揚高は百八十六萬一千四百五十五圓三錢で前年より五十萬圓を增加し今一息で二百萬圓を突破せんとするに至つた

そのうち主なるものは鰯が九十二萬一千圓、鰹が四十萬圓、サンマ二十五萬圓で縣下一の水揚高となり先進漁港銚子、鹽釜等に追ひつかんとして目覺しい躍進振りを發揮してゐるが

町當局では十一年度中に東北一の町營魚市場を建設するから完成後の水揚高は二百五十萬圓を突破するものと期待してゐる

十一人を拔いて鼻高々の折笠君
第一の寒稽古納會試合

昨報―平第一校では昨二十八日寒稽古納會を兼ねた校內劍道大會を催したが勝拔勝負に於ける優良成績の者左の如く何れも賞狀、賞品を授興された

十一人拔―六年折笠直彥
八人拔―五年稻邊昇一、渡邊英一
七人拔―五年藤田文邦、長谷川利夫、鈴木建助、石川榮一、六年大槻富雄
六人拔―五年淸水俊政、篠原仁平
五人拔―本多正行、高田

肅正運動に最後の馬力
平町でポスター掲出

選擧肅正運動に大童の平町では更に町考案にかゝる「正しき投票、棄てるな權利」のポスター數百枚を町內理髮店、會社、銀行、集會所等に掲出、最後の運動に努める事になつた

平町特別投票告示

平町では來る衆議院議員に際する特別投票の投票用紙及投票用封筒の交付並に投票の時間は每日午前九時から午後四時迄の旨告示した

湯本消防出初式

湯本町消防出初式は今二十九日午前九時から同町溫泉神社境內で行つた

淸田檢事出張

平檢事局淸田檢事は明三十、三十一の兩日福島地方裁判所檢事局に開かれる衆議院議員選擧檢察事務打合せのため出張する、又來月四、五の兩日は宮城控訴院檢事局の同上に出席すると

また自動車事故 刎ね飛して逃走
平署當局の眼光る

飯野村大字上高久字八海農大和田重成(四九)は昨夕五時頃玉川方面の年始廻りの歸路泥醉の上自轉車で湯本町辰の口地內國道を通行中平方面から疾走して來たトラツクにはね飛ばされ右コメカミ部に全治二週間の傷害を負ひトラツクはそのまゝ逃走した

平署では今般改正された自動車取締が從來より嚴重になつた爲一たん事故を起すと營業停止或は免許狀取上げ等を喰ふので運轉手も努めて其筋の手にかゝらぬやう逃げ拔く處から最近轢逃げ事件が頻發するので近く關係者を招き種々訓示する事となつた

投檜
投書歡迎

目障りなもの

◇街頭を步いてとても目障りとなるものに、時過ぎたビラやポスターがある。講演會や講習會のそれ、映畫會や音樂會等々のそれ、日付の間違つたカレンダーや時刻の狂つた時計を見るのと同じく氣にかゝる

◇舊正月もはや半ばに近いけふ此の頃、場末にチョイ〳〵見受けられる『秋衣更へ』『歲末大投賣』等は全くうすとぼけたものだ

◇そこで私は考へる。都市美のために當局はポスター掲示期を過ぎたら卽刻これを剝がさすやうにするか或は整理係りといつた樣なものを置いて、街頭から古ポスターを整理して欲しいと思ふ

◇いちばんの早みちは全然街頭にはこれを許さぬことであるが、近代都市の街頭にポスターやビラや新聞社の特報やを見ぬことはさびしくもあり、また美觀の點からいつてもどうかと思はれるからさうまでするには及ぶまい。要は新しいもの〳〵と迅速に取り替へて欲しいまでである

◇次は街頭を步いて目障りとなるのは、ショーウインドウに時節遲れのものが裝飾されてゐることだ。舊正月が過ぎるのに歲末賣出しの陳列がれい〳〵しくされて居り『賀正』の旗や廣告塔などがたてられてゐる、何となく賣れ殘りの娘さんを見る樣で悲慘な氣にさへなる。窓飾りなど春の衣裳を出しても可いと思ふのに、これは又餘りと云へば餘りに呑氣千萬ばかりでなく、商賣氣がなさ過ぎると思ふ。都市美の妨害になること夥しい（平町　舊望遠鏡生）

犯罪の裏面を觀る
竊盜は二十才前後 詐欺賭博は中年者
統計に現はれた年令調べ

送致件數千件突破と云ふ空前の記錄を築き上げた平署の昨年中の統計に現れた犯罪の原因はどうか、―先づ最多を占めて居る竊盜、詐欺について見ると先天的の習癖が最も多い

竊盜の習癖が七十三件で次が生活苦の五十七件の外職業的の四十三件、酒色故の元手稼ぎ五十九件等が主なるもので合計三百二十一件、詐欺は習癖で六十一件を筆頭に職業的のもの三十六件、生活苦の三十三件等である

更に犯罪者の年令別は竊盜が二十歲から二十五歲迄靑年ごころの六十二件が最も多く、お次は歲乃至三十五才の五十二名、十八才未滿の四十四名と云つたところで、詐欺になるとやはり中年どころで三十五才から四十才迄が一番多くて五十七件それから三十才乃至三十五才迄の五十六件、賭博もやはりその年配で三十才―三十五才の四十件に次いで三十五才から四十才迄の三十八名が比較的多い

コソ泥が先づ親玉
空巣戶締油斷も御用心!

手段

更に犯罪人はどんな手段に出てゐるか?、先づ竊盜を大別すると

屋內九五六件　屋外八八九件　其他四三件

合計千八百九十七件、更にこれを屋內外について見ると屋內ではコソ泥（三八〇件）被害が一番多く、次が空巣の一八九件、戶締油斷の一三九件等が比較的多く屋外では自轉車泥が先づ最高だ

尚詐欺の方は一時借用或は預つたまゝのが二百十三件が最も多くお次が只飲みの百十七件と來てゐる

災害復舊工事入札

上遠野村大平地內大山橋（鐵筋コンクリート橋）は此程の入札により八千圓で平町堀江工業に落札、近く着工する平町、平窪を繞する幕の內橋の材料供給も同會社に七千圓で落札した

尙好間川上流の澤渡村根小屋地內欠潰堤防約五十米、三株勿來停車場線田入村南大平地內欠潰道路約三十五米の入札は今二十九日平土木監督所で行つた

高野氏當選

平町三丁目衛生區長は此程の改選により高野正三氏當選

神樂打ち面喰ふ?
泊り込んだ同業者に 道具一切を盜まる

入遠野村上根生れ神樂打ち平子安吉(四三)は獨り神樂を打ちつゝ今月初旬頃小名濱町木賃宿に投宿中これ亦獨り步きの同業者西白河郡信夫村生れ小野源七(四〇)が泊り込んだので兩々打ち揃つて一と儲けする事に話しが纏つたが平子が風邪つ引きで寢込んでゐる二十七日早朝、小野は平子の獅子頭、豆太鼓及羽織、繻袢等道具一切（價格二十三圓）を搔つ攫つてドロンをきめたので平子は『これではワッチが上つたりでげス』と泣き込んで來た

惡戯されて同僚を毆る

錦村中田字糠塚貨車積下業納谷民治(三五)は舊臘二十日午後五時頃昭和人絹工場貨物積下場で同職の同村中田原金成重雄(三二)に從業中惡戯されたを憤り拳固を振つて毆打頭部に全治要十日の傷害を與へたが此程平區より略式罰金三十圓に處された

天氣豫報
（小名濱測候所觀測）

今晚は北西の風晴
明日は北西の風晴一時曇

早合點の一擊
伜の喧嘩を見た老坑夫 仲裁人を毆る

磐崎村大字上湯長谷字力石小野田炭礦坑夫佐藤磯五郎(五三)は去る六日午後三時頃同礦梅ケ平斜坑內で自分の伜光吉(二九)と同僚の大出淸藏(二八)とが些細な事から口論となつたのを傍にゐた坑夫の遠藤三郎(三九)が仲裁に入つたのを光吾を毆るものと早合點、手にしてゐたツルハシ樣のもので三郎の右手を毆り全治一ヶ月の傷害を負はせて平署の取調べを受けた

應齋草庵を訪ふ　三
―日本書漫談―
間添風

殊に昭和八年から本年にかけて名も無い書家が七、八名平町を中心に來てゐる其等無名の旅烏書家は兎にも角にも飯になつてゐるのだから世の中は面白いものである、行脚書家として最も大切な要素は何んでも書ける事に歸する、達磨でよし美人でよし七福神でよし花鳥山水人物注文者のお望みに委せる譯で、山水とか人物とか、又は花鳥專門とか例へ優秀な技術の持主でも一方に偏した書家は受けぬものである、素人の趣味家は書其の物の價値よりも自分の欲するゑが希望通り手に入れる事が出來るのが嬉しいのである、だから應齋が石城へ來て書會を開くならば無論千差萬別の注文ある事を覺悟せねばなるまい、加入者の希望するゑを書いて與れるかと訪問子が念を押すのは道理である

應『お尋ねご尤もだがわしの書會は趣を異にしてゐるのじや、書題は一切わしに委して貰ふ事にしてゐる、先づ加入者を募集する其の數だけ揮毫が終つたら頒布する場所に加入者全部の御出席を乞ふてゑを縱覽に供し、然る後御抽籤によつてゑをお渡しする、何れの土地でも此の方法でお願ひしてゐる、是はわしが多年藝術的良心の躍動にあらずんば筆を執らん諍據である、どうかわしの人格と藝術に信頼を置かれて欲しい』

訪『よく解りました、何れ又御意を得る時もございませう』

何れの方面から突つ込んでも鰻の鉢卷以上に逃げ道が遺憾なく準備せられてゐるからもう是の上駄法羅を聽く要も無いので訪問子は辭去した、玆に於て讀者は應齋畫伯の二大インチキを直に知られたでせう、卽ち他人の面前で執筆せぬこと及び書會に際し加入者の希望する繪を頒ち得ぬ事である是丈けの事實に徵してもインチキ書伯なる事を覺り得ず只彼の外貌にのみ心醉して漁夫の利を獲しめたのは前述の如く漫然たる繪畫趣味家の落度であつた事は仕方がない、世間に書家の番附けは幾多ある、是に名前が掲載されてゐるから確なものだと素人は考へるでせうが抑々問題の本である。書家名鑑程出鱈目なものは恐らくあるまい、發行所は大阪が一番で次ぎは奈良、京都、東京と云ふ順序である、名鑑發行の內幕を記してみやう、名鑑屋は書畫屋及び書畫材料店によつて全國に亘つて書家の卵迄住所を知つてゐる

誤叱府

無軌道天候の副產物たる風邪の神も愈々町役場の廳舍內に迄押しかけ、昨二十八日は遂にこれにかゝつて欠勤したものが何と八名、殘留の健康体は何れも異口同音に『先づ世の中は頑張りが肝腎でさあ!……』と鼻高々の態に未だ完全にとつゝかれないで顏中を上氣させ、ハナミヅをすゝつてゐる連中も思はず顏負けだ

三十日
（小名濱測候所調査）

日出　六、四〇　月出前　九、五四
日沒　五、〇一　月沒
滿潮　前七、二〇　後八、四五
干潮　前一、二五　後二、一〇

新一月三十日　木曜　舊正月七日　辛亥　先勝　開　井宿

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　ちたいしたる事も容易に解決せらる、良運日▲二黑　內いう外患至る努めて災禍をさくる用心あれ▲三碧　八方に手を擴げて收支つぐなはざること有らん▲四綠　時運佳なれば發奮に吉なれど同情を失ふな▲五黃　一家の反目交友との反感を防げば至極平穩▲六白　見込み違ひを生じ易き日又病厄盜難怪我注意▲七赤　ざ折を來たし再興容易ならざるに至る凶日▲八白　外敵を受け逆境に惱むが如し病盜の災禁戒▲九紫　本業を堅く守れば自ら利德加はるべき吉日

御禮

昨夜午後七時半拙宅より失火の際は早速御馳付の上消火に御盡力被下御蔭樣を以て大事に至らず消し止め候段難有奉深謝候一々拜趨御禮旁々御詫可申上の處取込中御尊名伺洩れも可有之候につき略儀乍ら紙上を以て御挨拶申上候

一月二十八日
平驛前　伊東一
各位

新車披露

スバラシイ乘心の良い一九三六年式新車入車致しました。
商用に!、旅行遊山に!、婚禮!
是非御利用を願ます。
平町三丁目
セリザワタクシー
電話三九五番

耳鼻咽喉科專門

病室完備
自炊ノ便アリ
平町田町（電六九一）
山內醫院
醫學士　山內亨吉

郡山腦病院

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
入院隨時
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
院長醫學士　金森五郎
電話九二五番